

# 埼玉県 横瀬町（林業の担い手育成事業）

- 横瀬町では、本町の林業を支えてきた、林業就業者の高齢化等により町内での担い手の確保が困難な状況になっている。
- そこで、森林整備に必要な林業労働力を確保するため、森林環境譲与税を活用し、町外からの移住者を対象とした、林業研修を実施し、林業に必要な資格や技術の取得を支援し、担い手の育成を図る。

## □ 事業内容

### 林業の担い手育成事業

- ・ 町外からの移住者に対し、実際の現場で下刈り、間伐、造林の作業を行う実践研修や講習等を受講し、林業に必要な技術の習得を行った。

【事業費】1,000千円（全額譲与税）

（譲与税は、研修費、研修用機材、講習費等に係る経費）

【実績】研修生1名

## □ 取組の背景

- ・ 林業就業者の高齢化等により町内での担い手の確保が困難な状況。
- ・ 町内の森林整備を推進していくには、町内の森林状況を熟知した林業者の育成が急務となっている。



## □ 工夫・留意した点

- ・ 林業事業体（秩父広域森林組合）に育成業務を委託したことで、現場での施業や林業に必要な技術の指導を行うことができた。

## □ 取組の効果

- ・ 研修生1名ではあるが、実践的研修を通して林業の技術習得が行えたことや、機材等の支援による負担軽減を行ったことで林業に就業しやすい環境を整えることができた。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：14,110千円	②私有林人工林面積（※1）：2,054ha	
③林野率（※1）：81.7%	④人口（※2）：7,979人	⑤林業就業者数（※2）：3人

- 川越市では、木材の利用促進をを想定しており、市有施設等の建築及び改修にあたって利用する方針。
- このため、埼玉県産の木材を活用し、市役所の来客用待合室の壁面に県産材を使用した木質の化粧を施す取組みを実施した。

## □ 事業内容

### 1. 公共施設等の木質化事業

- ・ 埼玉県産材を活用し、市役所の来客用待合室の壁面を木質化する取組みを実施。

【事業費】 550千円（全額譲与税）

【実績】 木材使用量 0.18m<sup>3</sup>

## □ 取組の背景

- ・ 県内県外を問わず市長副市長への来客者が使用することから、県産材を使用することでPRになると考えられるため。また、来客の待合室としては無機質な現状を改善できると考えられるため。



（来客用待合室）

## □ 工夫・留意した点

- ・ 来客用としては無機質な待合室の壁に、県産木材を使用した腰壁を施すことで、温もりと落ち着きある雰囲気を出そうと配慮した。

## □ 取組の効果

- ・ 県内県外を問わず市長副市長への来客者が使用する待合室の壁を木質化することで、県産木材のPRになるとともに、木材に触れることで関心及び利用促進に貢献している。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：41,145千円	②私有林人工林面積（※1）：19ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：354,571人	⑤林業就業者数（※2）：7人

- 友好都市棚倉町及び東白川郡森林組合と連携し、川越市在住の親子を対象とした森林環境ツアーを実施。
- ツアーへの参加を通じて、生活における森林の役割や大切さを学ぶとともに、森林整備や環境保護に関心を持ってもらうことを目的とした。

### □ 事業内容

- ・ 令和6年度、友好都市である棚倉町（福島県）にて「親子で学ぶ森林環境ツアー」を初めて実施しました。
- ・ 川越市から親子10組が参加し、棚倉町の小学生とともに木工体験や虫捕り、里山散策、ブルーベリー摘み・ジャム作りを行いました。

【事業費】501千円（うち譲与税69千円）

（譲与税は、木工体験に係る部分に充当）

【実績】参加人数23名

### □ 取組の背景

- ・ 川越市と棚倉町のこれまでの交流は、大人が中心となることが多かった中、将来にわたって継続的な交流が生まれることを目指し、本事業は親子を対象としました。
- ・ また、単なる観光ではなく、地域資源を生かした活動を通じて、棚倉町の魅力を五感で感じ、地域への理解や関心を深めることを目的としました。

### □ 工夫・留意した点

- ・ 子どもと保護者が一緒に参加する「親子ツアー」とすることで、世代を超えた森林への理解と関心が深まるように工夫しました。
- ・ 棚倉町の特産品であるブルーベリーの摘み取り体験や、その後のジャムづくり、里山の散策および虫捕りなどを行い、参加者の五感を通じた自然体験を充実させました。
- ・ 虫捕りと木工体験の際には、棚倉町の小学生も参加し、地域を超えた子ども同士の交流も実現しました。

### □ 取組の効果

- ・ 事後アンケートでは「木工体験がとても楽しかった」「自分で作ったものが記念になった」「虫捕りで初めてバッタを見た」などの声が多数寄せられ、自然や森林との直接的なふれあいが、参加者にとって強く印象に残る体験となったことが伺えました。
- ・ 「ふるさと納税をして、棚倉町を応援したい」との声もあり、地域への関心や応援の気持ちが生まれました。
- ・ 初めての試みではあったものの、参加者の満足度は非常に高く、今後も継続・発展可能な事業であると感じています。

### ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：41,145千円	②私有林人工林面積（※1）：19ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：354,571人	⑤林業就業者数（※2）：7人



（木工制作体験）



（里山散策）



（ブルーベリー摘み）

# 埼玉県 川越市（公立保育所の木質整備）

- ▶ 川越市では、木材の利用の促進を想定しており、市有施設等の建築及び改修にあたっての利用や、施設で導入するロッカーなどでの利用をする方針。
- ▶ 令和6年度においては、以下の取組を実施。
  - ・埼玉県産木材を使用し、ロッカーの修繕を実施した。

## □ 事業内容

### 公立保育所における、ロッカーの修繕

- ・ 埼玉県産木材使用 ロッカー修繕（高階保育園）
- ・ 埼玉県産木材使用 ロッカー修繕（高階第二保育園）
- ・ 埼玉県産木材使用 ロッカー修繕（名細第二保育園）

【事業費】 12,298千円（うち譲与税12,298千円）

### 【実績】

高階保育園	21台
高階第二保育園	18台
名細第二保育園	26台

## □ 取組の背景

- ・ 公立保育所において、県産木材を使用してロッカーを修繕することにより、園児及び職員が木材に触れ合う機会を創出し、木材利用に対する理解を深めようとするもの。

## □ 工夫・留意した点

- ・ ロッカーを修繕するにあたり、県産木材を使用した。

## □ 取組の効果

- ・ 園児及び職員が木材と触れ合う機会を創出し、木材利用に対する理解を深めることができた。



（高階保育園）

（高階第二保育園）

（名細第二保育園）

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：41,145千円	②私有林人工林面積（※1）：19ha
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：354,571人
	⑤林業就業者数（※2）：7人

- ▶ 川越市では、木材の利用の促進を想定しており、市有施設等の建築及び改修にあたっての利用や、施設で導入するロッカーなどでの利用をする方針。
- ▶ 令和6年度においては、以下の取組を実施。
  - ・市学童保育室の木質整備を実施した。

## □ 事業内容

### 市学童保育室施設への木質整備

老朽化した学童保育室施設を森林譲与税を活用することで整備する。

【事業費】10,725,000円（全額譲与税）

【実績】市内3学童保育室に以下の木質整備を行った。

児童用ロッカー修繕（山田学童保育室）

児童用ロッカー・棚修繕（今成学童保育室）

児童用ロッカー修繕（高階西学童保育室）

## □ 取組の背景

老朽化している学童保育施設の整備を検討していた一方で、施工費が高額になることから、財源を確保する一環として、森林環境譲与税を活用することとした。

また、良質な県産木材を用いて更新を行うことにより、より長く使用できる施設になることを見込み、本事業を活用した。



（ロッカー・棚修繕：今成学童保育室）（ロッカー修繕：高階西学童保育室）-35-※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

## □ 工夫・留意した点

- ・木材の良さが伝わるよう、児童が接する機会が多いと想定される場所を施工場所として選定した。
- ・可能な範囲で無節な材質を選定し、木のぬくもりや明るさが伝わるよう施工した。
- ・県産木材なので、材質が柔らかいと想定されるため、塗装を行った。

## □ 取組の効果

- ・市負担を抑えつつ、施設の整備を行うことができた。
- ・木のぬくもり溢れる施設になった。
- ・児童が触れるロッカーや棚を整備することで木や木材に関心を持つ機会が生まれた。
- ・違う施設の整備にも木材を使用できないか検討するきっかけになった。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：41,145千円	②私有林人工林面積（※1）：19ha	
③林野率（※1）：2.6%	④人口（※2）：354,571人	⑤林業就業者数（※2）：7人

- ▶ 鶴ヶ島市では、循環型社会を目指し環境美化の推進を図るため、「5R（ゴアール）」の取組や不法投棄防止の取組などによりさらなるごみの減量を進めていく方針である。
- ▶ このため、取組の一つとして生ごみ処理器キエーロを市民に向けて販売し、一般家庭における生ごみの自己処理によるごみの減量化や、焼却量の削減に対する意識の醸成を図る。

## □ 事業内容

### 5R推進事業

- ・ 生ごみ処理器キエーロの販売
- ・ 環境月間、地球温暖化防止啓発期間における展示
- ・ キエーロ使用者交流会
- ・ 広報、HP掲載による普及・啓発
- ・ 購入者へのアンケート調査実施、結果の公表

【事業費】 350千円（うち譲与税280千円）

（譲与税は、消耗品費に係る部分に充当）

【実績】 10基を製作、12基を販売（昨年度の在庫2基も含む）

## □ 取組の背景

- ・ ごみの減量化が課題であり、可燃ごみとして排出される物のうち、その重さの約3割を占める生ごみを自己処理することができたら、大幅なごみの減量につながると考え取組を開始した。
- ・ 最初は市民提案による協働事業としてモニター募集からはじめ、翌年にはオリジナルキエーロを組み立てる親子工作教室を開催。その後、市の事業として引き継ぎ販売を開始することとなった。



（西川材で製作された生ごみ処理器キエーロ）

## □ 工夫・留意した点

- ・ キエーロを製作する際、塗装などを施さず、西川材という素材の美しさを生かしてもらった。購入者からは、「天然木の木肌がきれい」、「おしゃれ」などの意見が多く好評である。
- ・ キエーロをより身近に感じて効果的に使用してもらうために、市のHPにて生活環境課が行う活用実験を公開した。
- ・ キエーロの普及啓発のため、環境月間啓発展示（5月31日～6月14日）、地球温暖化防止啓発展示（12月3日～13日）において、キエーロの展示を行った。
- ・ キエーロ使用者交流会（11月19日）では、キエーロの使用者と活用の工夫や困りごとなどについて情報交換を行った。

## □ 取組の効果

- ・ キエーロの具体的な実践情報は少ないようで、市内外から実践についての相談等があり、実験の結果を活用していただけた。
- ・ キエーロの使用者交流会では、一時的に使用を休止していた方からも、実践の工夫等を聞いて再度挑戦したい、交流会がためになったと意見を頂戴し、一定の効果が得られた。
- ・ 使用者へのアンケート結果から、キエーロを使用して生ごみを処理したことにより、使用世帯あたり約47,596グラム、1日約130グラムのごみの削減となったことが分かった。

### ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：8,114千円	②私有林人工林面積（※1）：15ha	
③林野率（※1）：4.0%	④人口（※2）：69,942人	⑤林業就業者数（※2）：3人

- ふじみ野市では、小規模な森林が点在し林業もないため、森林整備や人材育成・担い手の確保への譲与税活用は難しく、森林経営管理制度の該当もないことから、木材利用に充てていく方針。
- 令和6年度は、大井東中学校校舎大規模改造事業及び福岡中学校校舎D棟大規模改造事業に係る内装木質化を実施した。

## □ 事業内容

### 1 公共施設の木質化事業

- ふじみ野市立大井東中学校校舎大規模改造工事  
（R5～R7の3か年工事）  
【工事費】1,327,744,000円  
【実績】教室の腰壁材や床材の木質化
- ふじみ野市立福岡中学校校舎D棟大規模改造工事  
（R6～R7の2か年工事）  
【工事費】478,473,600円  
【実績】教室の腰壁材や床材の木質化

## □ 取組の背景

- 平成28年に策定した「ふじみ野市 市有施設の木造化・木質化等に関する方針」に基づき、公共施設の積極的な木質化を図っている。



（福岡中学校D棟 新教室）

## □ 工夫・留意した点

木目や色による視覚効果や肌触り、調質機能などの木材の良さを生かすため、これらに適した塗料を用いるなど、明るく温かみのある空間になるよう工夫しました。

## □ 取組の効果

- 木質化工事を実施したことに伴い、児童たちへの温かみと潤いのある教育環境づくりができる。
- 木質化はストレス反応の緩和や健康空間の改善、室内の温熱環境等の向上効果があるものとする。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：3,320千円	②私有林人工林面積（※1）：1ha	
③林野率（※1）：2.2%	④人口（※2）：113,597人	⑤林業就業者数（※2）1人

- ▶ 当市では、森林環境譲与税を主に木材利用に充てていく方針。
- ▶ 令和6年度においては、当市が運営を行う環境学習館の建設（更新）にあたり、施設の一部木質化を行った。

## □ 事業内容

### 環境学習館建設事業

環境保全に関する活動の支援等を目的とする環境学習館を新たに建設する。（令和4年度～令和7年度継続事業）

【事業費】 令和6年度分…449,044千円（うち譲与税17,056千円）  
（譲与税は、腰壁等の一部木質化に係る部分に充当）

【実績】 木材使用量 39.83m<sup>3</sup>

## □ 取組の背景

環境学習館を建設することで、環境学習活動や地域のコミュニティ活動の拠点づくりに寄与するほか、施設の一部を木質化することで、木材に触れる機会を創出する。



（建設中の環境学習館）



（木質化された腰壁）

## □ 工夫・留意した点

・利用者が手に触れやすい箇所に木材を利用し、木の温もりをより感じられるよう工夫した。

## □ 取組の効果

・本事業は複数年の継続事業であり、建物の完成は令和7年度中を予定している。そのため、詳細な効果については今後検証していく。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：7,329千円	②私有林人工林面積（※1）：14ha	
③林野率（※1）：3.8%	④人口（※2）：61,499人	⑤林業就業者数（※2）：1人

➤ 森林が無い吉川市において、森林が有する公益的機能の普及啓発を目的に、国産木材を活用した施設や備品の整備、森林環境教育推進のための公園整備を行うなど、木材利用の促進・普及啓発に資する取組を実施した。

## □ 事業内容

### 1 国産木材を使用した施設修繕事業

- 市内学童保育室1箇所のロッカーについて、国産木材を使用した木質化修繕を実施。

【事業費】1,738千円（うち譲与税1,738千円）

【実績】栄学童保育室：ロッカーの木質化

### 2 国産木材を使用した備品整備事業

- 市内中学校1校において国産木材を使用した備品整備を実施。

【事業費】840千円（うち譲与税840千円）

【実績】中央中学校：木製椅子80脚

### 3 森林環境教育の場創出のための公園整備事業

- 公園敷地内の整地や外周部の木柵設置などを実施。

【事業費】17,626千円（うち譲与税5,493千円）

【実績】公園整備のための測量設計や公園敷地全体の整地、外周部への木柵の設置

## □ 取組の背景

- 吉川市には森林が無いため、木材利用の促進や森林の公益的機能の普及啓発を中心に取組を推進する方針としている。

## □ 工夫・留意した点

- 譲与税という貴重な財源を効果的に木材利用の普及啓発に活用するため、市内公共施設の木質化や公園整備を実施し、持続的かつ波及効果の高い普及を図った。

## □ 取組の効果

- 公共施設の木質化や木製備品の整備を通して、日常的に木材を利用した備品に触れる機会を創出した。
- 公園整備により、森林と人々の生活や環境との関係についての理解と関心を深める「森林環境教育」を推進する場を創出した。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：8,071千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：71,979人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



（栄学童保育室 ロッカー）



（中央中学校 椅子）



（公園整備）

- 羽生市では、森林の面積が少なく、森林保護や林業分野に対し本税の利用は難しいと感じている。
- そこで、森林環境税を財源として、公共施設等の木質化を推進する方針。

## □ 事業内容

### 羽生市いわせ保育所整備事業

昭和48年に開所した第6保育所と昭和51年に開所した第7保育所を統合した新しい保育所の整備を行った。

#### 【事業費】

483,617千円（うち譲与税、14,000千円）  
（譲与税は、施設の木質化に係る部分に充当）

#### 【実績】

構造・階数：木造平屋建て 延床面積：609.06㎡  
木材使用箇所：躯体一式  
床フローリング（なら）：391㎡  
内部建具：42箇所、  
その他内装：家具一式：30箇所

## □ 取組の背景

施設老朽化が著しく、安心して子どもたちが活動できる環境整備が必要であった。

## □ 工夫・留意した点

内装に国産の木材を施し、乳児室には床暖房を整備した。  
また、環境に配慮し太陽光発電設備を設置したほか、バリアフリー化も行った。

## □ 取組の効果

子どもたちがのびのびと学べる、快適で明るい、温かみのある施設となった。



（外観）



（教室）



（体育館）

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：6,113千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.2%	④人口（※2）：52,862人	⑤林業就業者数（※2）：1人

-40-※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく
- 埼玉県内の森林整備により発生した間伐材を活用し登録証等を作成し配付した

## □ 事業内容

こしがやSDGsパートナーの登録者へ木製ピンバッジを交付するほか、秩父市産材を活用した鉛筆を購入してイベント等で配布する。

【事業費】 1, 115千円（全額譲与税）

【実績】 木製ピンバッジ：1, 500個

秩父産スギ使用鉛筆：3, 000本

## □ 取組の背景

・こしがやSDGsパートナー登録者へオリジナルロゴマークをあしらった木製ピンバッジを交付するにあたり、森林環境譲与税を活用して埼玉県産の間伐材を使用することとした。

令和6年度末登録者数 → 企業・団体等：178 個人：24

・森林環境譲与税を啓発するため、秩父市産材を活用した鉛筆を購入し、イベント等で配布した。



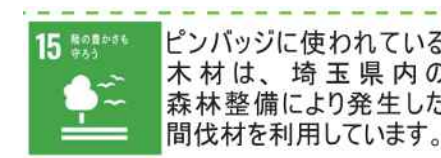
（木製ピンバッジの写真）



（鉛筆の写真）

## □ 工夫・留意した点

・埼玉県内の森林整備により発生した間伐材を利用したこと、森林環境譲与税を活用していることがわかるよう、木製ピンバッジ用の紙の台紙を作成し明記した。



（木製ピンバッジ台紙より）

## □ 取組の効果

・環境に配慮した取組を実施しているこしがやSDGsパートナー登録者へ交付することで、森林環境譲与税についてより効果的に普及啓発することができた。

・企業の窓口などに設置いただくことで、森林環境譲与税について広く普及啓発ができた。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

▶ 森林の役割や重要性の理解を促進するため、子どもを対象にした木育イベントを実施した。

## □ 事業内容

### 木育イベント

- ・ イオンレイクタウンで毎年行われている「アクトグリーンエコウィーク」内で木育イベントを実施した。

木の役割などについてのパネル展示（来場者）、国産材を使ったアートタグ作り（申込者）、木製ジャングルジムの組立・解体ワークショップ（申込者）

【事業費】 999千円（全額譲与税）

【実績】 アートタグ作り

1日目48名、2日目46名（延べ94名）

木製のジャングルジム組立・解体ワークショップ

1日目40名、2日目56名（延べ96名）

（アクトグリーンエコウィーク自体の来場者は延べ3万人。）

## □ 取組の背景

・ 平成20年（2008年）から続く企業、行政、市民が一体となって開催している大型エコイベント「アクトグリーンエコウィーク（会場：イオンレイクタウン）」内で、令和3年（2021年）より森林環境譲与税を活用して木育イベントを実施している。

## □ 工夫・留意した点

- ・ 普及啓発活動を効果的に実施するため、子どもたちへの指導に対する専門的な知識・経験を有した者へ業務を委託した。



（アートタグ作り）

（木製のジャングルジム）

## □ 取組の効果

- ・ 集客力の高いイベント内で開催することによって、たくさんの方に参加していただくことができた。  
また、木育に興味のなかった方の目にも触れることができ、普及啓発活動を効果的に行うことができた。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 家庭における生ごみの自己処理を実践してもらうとともに、ごみ減量に対する意識の醸成を図る取り組みを実施。
- ▶ 木材は、熱伝導率が低く加工しやすいだけでなく、長期間の屋外使用に耐えられることから越谷キエーロの材料として採用。
- ▶ 埼玉県産木材の利用促進のため、埼玉県産木材認証制度を活用。

## □ 事業内容

### 【越谷キエーロで生ごみ減量教室の実施／越谷キエーロの販売】

越谷市リサイクルプラザを会場として、ごみ減量啓発の学習と合わせて本体（名称：越谷キエーロ）の製作から行う教室を実施した。また、完成品を希望する方に販売を実施した。完成後は家庭に持ち帰り、生ごみを越谷キエーロに投入することで生ごみ減量活動への協力を依頼した。

【事業費】 1,700千円（全額譲与税）

（生ごみ処理器の材料および寸法に合わせたカット等の作業に係る部分に充当）

【実績】	教室	申込組数	参加組数	参加人数
	11回	58組	53組	139人

サイズ	大	中	小
販売数	6	12	6



（製作の様子）

## □ 取組の背景

- ・ごみ減量やりサイクルの普及啓発を目的として、家庭でできる生ごみ減量に着目した
- 産木材を使用した非電動型の生ごみ処理器を活用することとした。

## □ 工夫・留意した点

- ・材料のロス（破棄部分）削減のため、図面作成段階から業者と打合せを重ねて本体の形状、寸法を設定した。
- ・「越谷キエーロで生ごみ減量教室」では、自分たちで協力しながら製作できるように手順書を作成した。

## □ 取組の効果

教室参加者のアンケート回答（抜粋）

- ・生ごみを捨てる時に気になっていたもので、今回作ったキエーロを早速使って子どもと一緒に生ごみ減量に取り組んでみようと思います。親子で楽しく物作りをする良い機会にもなりました。（40代）
- ・親子で一緒にごみ問題を考える機会は貴重です。これからの生活の中でも、ごみや環境について、親子で話す機会が増えそうです。本格的な木工体験も楽しくて、良い時間を過ごせました。（大人）
- ・日常で燃えるゴミは、たくさん出ていましたが、自分達で少しずつ処理していき、少しでも回収するゴミなどが減らしていければ良いなと思いました。この教室を通して改めて考える事が出来た。（10代）

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

- ▶ 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく。
- ▶ 老朽化した木橋の床板、橋桁などを新規の材料に交換する。

## □ 事業内容

花田第六公園（花田苑）の老朽化した木橋の床板、橋桁などを新規の材料に交換する。

【事業費】18,150千円（うち譲与税18,150千円）

【実績】木橋：橋桁、床板 桧 1.43㎡  
太鼓橋：橋脚、梁、橋桁、敷板など 桧 2.86㎡  
合計：4.29㎡

## □ 工夫・留意した点

- ・屋外であることから、腐食対策として、保護塗料を施工した。保護塗料は、木材の色味に影響がない透明塗料を選定した。
- ・各橋の形状は、庭園全体の景観に変化を与えないように施工当時の形状のまま施工した。

## □ 取組の背景

花田第六公園（花田苑）は、「ゆったりとした風情ある景観、安らぎとぬくもりが息づく伝統に培われた日本文化」を楽しめる、本格的な日本庭園である。

木材を利用した、木橋、太鼓橋は老朽化が進み、景観や安全上の観点から問題があるため、木部の取替え工事を検討してきた。

## □ 取組の効果

来客者へ新しい木材の温もりを提供できた。また、婚礼などの記念写真の撮影に利用されるため、より良い景観を提供することができた。



木橋



太鼓橋

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人
	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- ▶ 森林環境譲与税の使い道が課題となっている中、当該税が創設された趣旨を踏まえて活用方法等を検討した。
- ▶ 幼稚園や保育園などに通う5歳児（年長児）を対象に、埼玉県産木材で作られたマグネット付木片を知育教材として活用し、児童の創作意欲をかきたて、五感の成長を促すとともに、「木育」を通じ自然との関わり・森林環境への理解を促す取組を実施することとした。

## □ 事業内容

市内の幼稚園や保育園などに通う5歳児（年長児）を対象に、埼玉県産木材で作られたマグネット付木片を知育教材として配布し、木育教育を行う。

- ・木との触れ合い（木片をヤスリがけして手触り、香りを感じる）
- ・クラスメイトの木片を壁面等に寄せ集め、保育中や自由遊びの中で児童の自由な発想により様々な形を創るほか、数字などの学習にも活用する。
- ・木育に関する啓発リーフレットの活用により森林環境の大切さ等の理解を促す。

【事業費】2,673千円（うち譲与税2,673千円）  
（譲与税は、知育教材の調達に係る部分に充当）

## 【実績】

施設種別	対象施設総数	実施希望施設数	対象人数
私立保育園	19	16	381人
認定こども園	10	3	236人
私立幼稚園	20	8	610人
公立保育所	18	18	496人
計	67	45	1723人



（知育教材）



（教材を使っている様子）



## □ 取組の背景

本市の森林環境譲与税の活用の方向性として

- ・子育て支援関係事業への重点的な活用
- ・森林整備を支えるための継続的な普及啓発に向けた活用

が示されており、未来を支える子ども達が直接的に携われる事業へ活用することとした。

## □ 工夫・留意した点

- ・児童の自由な発想を引き出し、創造的な使い方を自分たちで考えることができる教材・プログラムとすることを目指した。
- ・ケガや事故のないよう配慮しつつも、木の特性を体感するためにあえて未完成の状態での教材を提供した。

## □ 取組の効果

- ・子どもたちは木片の組合せによってイメージを表現する過程で、身の周りにある図形への関心が高まったほか、五感で木の温もりを体感することができた。
- ・子どもたち同士で何を創るかミーティングを行い、自らイメージしたものを表現したり他者の意見を聴き受容する機会を、埼玉県産木材の知育教材の活用を通して提供できた。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 越谷市では、森林環境譲与税が創設された趣旨を踏まえて、木材利用や普及啓発を実施していく。
- 令和7年4月に開所した緑の森公園保育所の備品として、児童用の机、椅子及び玩具に国産木材を使用した物品の購入を行った。

## □ 事業内容

**国産木材を使用した、児童用の机、椅子の購入及び埼玉県産木材で作成された玩具の購入。**

【事業費】21,553千円（うち譲与税18,983千円）

【実績】児童用机（国産ブナ材使用） 162台

児童用椅子（国産ブナ材使用） 313脚

<両神山の郷づくり（小鹿野町）>

おがのダリアブロック 65個

<森のおくりもの（秩父地域地場産業振興センター）>

ちちぶの木とクマタカのパズル 10個

樹木パズル 20個

ブリ木タウン 30個

TUMICCO 65個

木守りのおうち 20個

ままごとセット 20個

キデドン！和紙太鼓 30個

変身！キッカー 20個

## □ 取組の背景

- ・緑の森公園保育所は、久伊豆神社、緑の森公園等に隣接し、緑豊かな自然の中に建設されたため、周辺環境に加え、木育を通じて自然との関りや森林環境への理解を深める目的で、国産木材を使用した物品の購入を検討していた。

## □ 工夫・留意した点

- ・木製の机、椅子は、フローリングの床材と相性が悪く、非常に滑りやすかったため、脚部に滑り止めを取付けた。
- ・数ある木製おもちゃの中から、子どもたちが自ら考えながら遊ぶことができ、知育としても活用できるパズル系のおもちゃを比較的多めに選定した。

## □ 取組の効果

- ・子どもたちからは、手触りの良さ、プラスチック製のおもちゃにはない目に優しい色合い、木と木のぶつかる音が優しい、見た目が良いなどの意見があり、木材に対しての理解を深めることができた。



（児童用机・椅子）



（おもちゃで遊ぶ様子）



## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人	⑤林業就業者数（※2）：0人

## 埼玉県 加須市（公共施設等への木材利用）

- ▶ 加須市では、森林整備等への理解促進につながる取組として、木材利用や普及啓発等を促進することを基本とし、これまで経費がかさむことで予算化が困難だった公園の木道やウッドデッキ、市有施設の木造化・木質化等の経費に森林環境譲与税を活用することとしている。
- ▶ 令和6年度においては、川口北公園及び向古河コミュニティ広場に木製遊具を設置した。

### □ 事業内容

#### 公共施設等への木材利用（公園整備事業）

- ・ 川口北公園及び向古河コミュニティ広場に木製遊具（アミダの山）を設置した。

【事業費】 3,847千円（うち譲与税2,998千円）

【実績】 木製遊具（アミダの山） 2台  
木材使用量 18.93154m<sup>3</sup>



### □ 取組の背景

- ・ 多くの児童が利用する公園に、新たな木材遊具（アミダの山）を設置し、日常の中で木に触れる機会を増やした。

### □ 工夫・留意した点

- ・ 耐久性が高く安全性の高い木製遊具を選定し、木材の利用促進・普及啓発に努めた。

### □ 取組の効果

- ・ 新たな遊具を導入することにより、児童が楽しんで遊べる。



### ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：13,446千円	②私有林人工林面積（※1）：－	
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：111,623人	⑤林業就業者数（※2）：5人

- ▶ 久喜市では、森林環境譲与税を木材の利用の推進に関する事業に充当する方針としている。
- ▶ 令和6年度においては、公共施設の木造化・木質化を実施した。

## □ 事業内容

### 1 ふれあいセンター久喜管理事業

- ・ふれあいセンター久喜のベンチ修繕に際し、県産木材を使用した。

【事業費】129,675千円（うち譲与税246千円）

【実績】ベンチ 6基

### 2 桜田コミュニティセンター内図書コーナー開設準備事業

- ・新設する桜田コミュニティセンター内の図書コーナーへの本棚等設置にあたり、国産木材を使用した。

【事業費】10,204千円（うち譲与税9,790千円）

【実績】本棚(3台),閲覧机(2台),閲覧椅子(12脚),スツール(3台)

## □ 取組の背景

- ・公共施設のベンチ修繕および本棚の設置を検討していく中で、「久喜市市有施設の木造化・木質化等に関する方針」に基づき、県産および国産の木材を利用して実施することとした。

## □ 工夫・留意した点

- ・ふれあいセンター久喜のベンチについては、県産木材を使用した。

## □ 取組の効果

- ・市民にやすらぎとぬくもりのある健康的で快適な公共空間を提供することができた。
- ・森林環境譲与税を活用することで、市負担を抑えて事業を実施することができた。



ふれあいセンター久喜内ベンチ

桜田コミュニティセンター内図書コーナー

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：16,893千円	②私有林人工林面積（※1）：12ha	
③林野率（※1）：0.1%	④人口（※2）：150,582人	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 鴻巣市では森林環境譲与税を活用して、公共施設の木質化や木製の机・椅子の導入を進め、木材利用の促進・普及啓発に取り組む方針。
- 令和6年度は木製備品の購入等、3事業を実施。
- 令和7年度においても、市内小中学校の特別教室の机・椅子の更新、中学校の机・椅子張り替え、保育所の備品整備を継続的に進めていくとともに、計画的に木材利用の推進を行うこととしている。

## □ 事業内容

### 小学校備品購入事業・中学校備品購入事業

- ・ 市内小中学校の特別教室の机・椅子の老朽化が進んでいるため、順次購入し、整備を行う（2校実施）。

【事業費】 6,820千円（うち譲与税6,039千円）

※譲与税は木製備品の購入に係る部分に充当

【実績】 木製作業台18台、木製角椅子75脚購入

### 中学校施設維持管理事業

- ・ 市内中学校の普通教室の椅子の老朽化が進んでいるため、順次背板・座板を張り替えし、整備を行う。（5校実施）

【事業費】 5,522千円（全額譲与税）

【実績】 木製椅子564脚張り替え

### 公立保育所管理運営事業

- ・ 市内保育所のテーブル・椅子の老朽化が進んでいるため、購入し、整備を行う。（1か所実施）

【事業費】 5,522千円（うち6,024千円）

【実績】 木製テーブル61台、木製椅子100脚購入

## □ 工夫・留意した点

- ・ 保育園児や小中学生に対しても、親しみやすく温かみのある 木製の机と椅子を整備することで、将来を担う子供たちへの良い普及啓発となった。また、机・椅子を整備した施設については、森林環境譲与税の活用ポスターを掲示し、普及啓発を行った。



（小学校特別教室机・椅子購入）



（中学校特別教室机・椅子購入）



（中学校椅子張り替え）



（保育所の机・椅子購入）



## □ 取組の背景

- ・ 市内小中学校や市内保育所の木製の机・椅子・木製備品の老朽化の進行

## □ 取組の効果

- ・ 譲与税を活用し、県産・国産木材を使用した備品を購入することで安心・安全に子供たちが活動できる環境を整えられた。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：13,844千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.2%	④人口（※2）：116,828人	⑤林業就業者数（※2）：2人

➤ 公共施設の木質化を推進するため、都市公園に木製健康遊具を設置する。

## □ 事業内容

### 都市公園等整備事業

- 都市公園（園）に木製遊具設置。

【事業費】 8,000千円（うち譲与税8,000千円）

【実績】 7,590千円（うち譲与税7,590千円）

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：16,124千円	②私有林人工林面積（※1）：0 ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：142,145人	⑤林業就業者数（※2）：1人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



➤ 公共施設の木質化を推進するため、公立保育所に木製健康遊具を設置する。

## □ 事業内容

### 保育所運営管理事務事業

- 公立保育所（4園）に木製遊具設置。

【事業費】 28,100千円（うち譲与税28,100千円）

【実績】 26,180千円（うち譲与税26,180千円）

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：16,124千円	②私有林人工林面積（※1）：0 ha	
③林野率（※1）：0 %	④人口（※2）：142,145人	⑤林業就業者数（※2）：1人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



- 草加市では、森林環境譲与税を公共施設等の新築・改修時や公園等の整備に効果的に活用するため草加市森林環境譲与税基金を設置している。
- 令和6年度においては、森林環境譲与税を活用し、公園整備に伴い木材を活用した公園内休憩施設等を整備。

## □ 事業内容

### 吉町五丁目市民緑地整備

- ・ 公園整備に伴い、国産木材を活用した休憩施設等を実施。

【事業費】28,196千円（うち譲与税10,609千円）  
（譲与税は、休憩施設等の整備に係る部分に充当）

【実績】国産木材を活用した休憩施設等

## □ 工夫・留意した点

- ・ 国産木材の利用拡大を図るとともに、利用者に木のぬくもりを感じてもらい、木材の普及啓発も併せて図れるようにした。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：27,843千円		②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：248,304人	⑤林業就業者数（※2）：0人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



➤ 森林環境譲与税の理解及び周知のため、森林・林業体験イベントを実施。

## □ 事業内容

### 森林・林業体験運営業務

- ・ 高性能林業機械のデモンストレーション。
- ・ ツリーイング。
- ・ 森林・林業の普及啓発。

【事業費】 418千円（うち譲与税418千円）

【実績】 24人

## □ 取組の背景

- ・ 森林環境譲与税を理解及び周知のため、森林・林業体験イベントを実施。

## □ 工夫・留意した点

- ・ ツリーイング体験を始める前に森林環境税を理解してもらう挨拶をしました。対象は小学生から父兄まで分かりやすい内容にしました。

## □ 取組の効果

- ・ 記念品（啓発品）の木材コースターもイベント共々好評であり、林業についても興味を持ってもらいました。



(ツリーイング体験)



(高性能林業機械)

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：14079千円	②私有林人工林面積（※1）：1161ha	
③林野率（※1）：26.9%	④人口（※2）：78569人	⑤林業就業者数（※2）：6人

- ▶ 小川町では、森林環境譲与税の創設を機に、木材利用や普及啓発活動を通じた住民への森林整備への理解の醸成に取り組んでいく方針。
- ▶ 令和5年度から、小川町に住所を有する新生児を対象とした事業として、町産木材を使用した木製の誕生祝品（あしのメモリー）を贈呈し、木材利用及び普及啓発の活動を行っている。

## □ 事業内容

### 町産木材を活用した木製の成長記録板（あしのメモリー）の贈呈

- ・町内に住所を有する新生児について、町産木材を利用した成長記録板（あしのメモリー）を誕生祝品として贈呈することで、木材利用及び普及啓発活動を行った。

【事業費】 336千円（全額譲与税を充当）

【実績】 配布数：61件

## □ 取組の背景

- ・木材利用及び普及啓発活動の一環として、乳幼児期からのお子様の成長を記録してもらうとともに、木の手触りや香り、ぬくもり、質感等を感じてもらい、木や森に関心を持っていただくことを目的とするため。



（成長記録板（あしのメモリー））

## □ 工夫・留意した点

- ・小川町産の間伐材を使用。
- ・成長記録板だけではなく、スタンド、スタンプ、小川和紙をセットでプレゼント。
- ・片面には、新生児のお名前、誕生日、出生時の体重・身長を記載。

## □ 取組の効果

- ・申込書記入時には多くの親御さんから喜びの声をいただいている。
- ・具体的な効果については検証できていない。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：15,188千円	②私有林人工林面積（※1）：1,656ha
③林野率（※1）：53.8%	④人口（※2）：28,536人
	⑤林業就業者数（※2）：1人

- 川島町では、森林環境贈与税を、主に木材利用に充てていく方針である。
- 公立小学校の統合・移転による、新たな校舎の建築にあたり、国産木材の利用して内装の木質化を図った。

## □ 事業内容

### 公立小学校校舎等の木質化

- ・ 公立小学校の統合、移転に伴い、新たな小学校校舎を建設するにあたり、国産木材を使用することで、普及啓発を図る。

【事業費】 590,425千円（うち譲与税2,172千円）

（譲与税は、フローリングや腰壁で使用する木材に係る部分に充当）

【実績】 22.17㎡

（フローリング、巾木、腰壁等に使用）

## □ 工夫・留意した点

- ・ 使用する木材の選定にあたり、国産の木材を使用した。
- ・ 学校生活において多くの時間を過ごす場所を重点的に木質化を図り、木と触れ合う機会を多く創出した。

## □ 取組の背景

- ・ 川島町内には森林がなく、子供たちが木材に触合う場所が少ない。そのため、本事業を通じて、国産木材を使用した教育環境の整備を行い、国産の木材に触れる機会を創出した。

## □ 取組の効果

- ・ 川島町の風土と調和した、木の温かみを感じることのできる環境が実現された。
- ・ 生徒だけでなく、教員や保護者も愛着を持てる施設整備が実現された。



（廊下）



（教室）



（図書室）

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：2,026千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：19,378人
	⑤林業就業者数（※2）：0人

- ▶ 鳩山町では、森林を身近に感じる機会を提供するため、町有林の一部を「石坂の森」として里山整備を実施しており、町内外の多くの方がウォーキング等を楽しむために訪れる「石坂の森」の整備等に森林環境譲与税を活用し、訪れた方の森林に対する関心を高めることを目的とした取り組みを行っている。
- ▶ 令和6年度は、散策する歩行者へ県産木材の普及及び啓発等をするため、「石坂の森」の活動広場に新たにログテーブルを設置した。

## □ 事業内容

### 1 石坂の森ログテーブル設置工事

- ・「石坂の森」の活動広場に、県産木材を使用した新たなログテーブルを設置した。

【事業費】495千円（うち譲与税 363千円）

【実績】木製ログテーブル2基の設置

## □ 取組の背景

- ・従来、「石坂の森」の活動広場では、木製のベンチとテーブルを設置していたが、テーブルは経年劣化により、耐久性及び安全面等に懸念があった。
- ・また、活動広場の利用者等に対する利便性を向上させるとともに、県産木材の普及及び啓発等をするため、新たにログテーブルを設置することとした。



（施工前）



（施工後）

## □ 工夫・留意した点

- ・経年劣化が著しかったテーブルは撤去し、安全性及び利便性等を図るために、新たなログテーブルを設置した。
- ・また、木材の普及及び啓発を行うために、設置したログテーブルには県産木材を使用した。

## □ 取組の効果

- ・新たなログテーブルを設置したことで、歩行者が「石坂の森」の活動広場で休憩等をする際に、安全性及び利便性等が確保できた。
- ・「石坂の森」の歩行者がログテーブルを利用する際に、県産木材の材質の良さ等に触れ合うことで、県産木材の推進を図ることができた。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：2,144千円	②私有林人工林面積（※1）：90ha	
③林野率（※1）：35.4%	④人口（※2）：13,560人	⑤林業就業者数（※2）：3人

➤ 上里町では、木材の利用促進、普及啓発に資することを目的として、木製品への親しみを深めることにもつながるよう、木製食器等を贈呈し、利用してもらう取組を行っている。

## □ 事業内容

### 地域子ども子育て支援事業

- ・ 新生児の保護者へ、県産木材を使用した製品を祝品として贈呈する。

【事業費】 3,087千円（うち譲与税3,086千円）

（譲与税は、購入費に係る部分に充当）

【実績】 令和6年度は165人に贈呈。

## □ 取組の背景

- ・ 子育て支援施策の充実を図る中で、「新たに町民となったお子さんへのお祝いとして、後々残るものを贈りたい」との考えがあり、令和3年度より出産祝品の贈呈を開始した。各家庭の状況に応じて祝品を選択していただけるよう、令和5年度より新たに2種類を追加し、3種類の中から一つ選べるようにした。
- ・ 日常的に、かつ比較的長い期間使ってもらえるものとして、木工品にした。また、それにより木材の利用促進・普及啓発につながることから、森林環境譲与税を財源として活用することとなった。
- ・ 製作は県内業者に依頼しており、打ち合わせを重ね、町の希望に沿った製品が完成した。



## □ 工夫・留意した点

- ・ どの製品も乳幼児が使用するため、なめらかな手ざわりにした。
- ・ 多機能椅子は新生児の名前と生年月日、フォトブロックには名前を希望により印字できるようにした。
- ・ 多機能椅子は、椅子としてはもちろん、絵本の収納・踏み台にすることもでき、成長しても使い続けられるよう工夫した。

## □ 取組の効果

- ・ 乳幼児の頃より、木に触れることで『木育』の効果が期待できる。
- ・ 子どもの成長と共に、木の風合いの変化を楽しむことができ、長く使い続けることができる。
- ・ 多機能椅子の製作は、障がい者就労施設である社会福祉法人幸仁会 川本園に依頼しており、障がい者支援の側面も併せ持っている。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：3,774千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0.2%	④人口（※2）：30,343人	⑤林業就業者数（※2）：2人

- ▶ 桶川市では、公共建築物の木質化を進め、多くの住民が木造施設に触れ親しみ、木材の良さや木材利用の意義を知ることができるよう取り組んでいる。
- ▶ 公共建築物の木質化に当たっては、県産材・国産材を効果的に使用するため、森林環境譲与税を活用している。

## □ 事業内容

### いずみの学園整備事業

- ・ 児童発達支援センターいずみの学園の新築工事において木質化を行った。

【事業費】 428,912千円（うち譲与税1,899千円）  
（譲与税は、木工工事のうちの県産木材に係る部分に充当）

【実績】 木材使用量 148.9㎡

## □ 取組の背景

- ・ 桶川市では「桶川市市有施設の木造化・木質化等に関する方針」を定めており、公共建築物において積極的に木質化を図っている。
- ・ 新施設の建築に当たり、子どもたちの育ちを支えるにふさわしく、障がいの有無や世代にかかわらない地域交流の場に、木材を使用することで、木の温もりを感じられる施設とする。

## □ 工夫・留意した点

- ・ 地域交流（いわゆるインクルージョン）を進めるための交流スペースの壁の県産材を使用し、木の温もりを感じられる場とした。
- ・ 交流スペースに木材ベンチを設置し、リラックスしながら交流できる環境を整えた。

## □ 取組の効果

- ・ 児童、保護者の方々に木材の良さ（色、香り、温もり）を感じてもらい、木への親しみを感じてもらえる施設となった。
- ・ 木のぬくもりを感じられるあたたかい環境で、園児がのびのびと成長できる施設となった。



（施設外観）



（集会室）



（指導室）

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：8,403千円	②私有林人工林面積（※1）：64ha
③林野率（※1）：2.5%	④人口（※2）：74,748人
	⑤林業就業者数（※2）：0人

- さいたま市では、森林に対する知識・関心・興味を高めるため、市民に対し森林の持つ公益的な機能等について積極的に普及啓発を行う方針。
- 令和6年度は、山間部2自治体と市内イベントへ協働出展し、県産材を用いた啓発品の配布及び木材利用推進の周知・PRを行った。

## □ 事業内容

### 森林啓発に関する事業

- ・ 浦和区民まつり2024 ブース出展（飯能市協働出展）
- ・ 第22回南区ふるさとふれあいフェア（南区民まつり）ブース出展（秩父地域森林林業活性化協議会協働出展）
- ・ 2024大宮区民ふれあいフェア（大宮区民まつり）ブース出展
- ・ 第23回さいたま市環境フォーラム ブース出展
- ・ 令和6年度さいたま市農業祭 ブース出展

【事業費】270千円（全額譲与税）

【実績】木製コースター 625個配布  
木製マグネット 420個配布

## □ 取組の背景

荒川上流域の山間部自治体（秩父市、飯能市）にコンタクトをとり、協働で行える事業はないかを模索したところ、さいたま市のイベントに協働出展し、各自治体の地域産木材（埼玉県産木材）を使用した体験の機会を提供することで、より効果的な木材利用・普及啓発が行えるとの考えで一致し、令和5年度に引き続き、事業を実施した。



（浦和区民まつり）



（南区民まつり）



（大宮区民まつり）

## □ 工夫・留意した点

- ・ 来場者の目を引くように、のぼりやパネルを目立つように展示。
- ・ 柱ベンチの設置や、丸太切り体験などを行い、皆が興味を持ち、参加したくなるよう演出。
- ・ 啓発グッズ（木製コースター・木製マグネット等）を配布し、県産材等の利用促進に係る普及啓発を実施。

## □ 取組の効果

- ・ 森林の公益的機能及び森林資源の循環利用による森林整備の効果などを周知できた。
- ・ 荒川上下流域の連携による森林づくりの取組について周知でき、「西川材」「秩父材」などの埼玉県産木材をPRできたことで、木材利用の推進・普及啓発が行えた。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：151,500千円	②私有林人工林面積（※1）：12ha	
③林野率（※1）：1.3%	④人口（※2）：1,324,025人	⑤林業就業者数（※2）：16人

-59-※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 伊奈町では、森林が少なく森林によるCO<sub>2</sub>の吸収量が少ない状況である。
- このため、埼玉県横瀬町と「未来につなぐ森づくり連携協定」を締結し、横瀬町の森林整備を行い、伊奈町のCO<sub>2</sub>吸収量を増加させることで地球温暖化対策に取り組む。

## □ 事業内容

### 横瀬町有林「南沢」の間伐委託作業

【事業費】 1,925千円（うち譲与税1,925千円）

【実績】 1.8haのスギの木の間伐

## □ 取組の背景

- ・伊奈町では森林の間伐のみではなく、住民同士の交流等の様々な事業で連携できる自治体を探している中で埼玉県の紹介で横瀬町と連携していくこととなった。
- ・横瀬町は約2,688haの人工林を抱えており、人工林の約75%は45年生以上となっていて、森林の循環利用を推進していく必要があった。

## □ 工夫・留意した点

- ・令和8年度に伊奈町の新庁舎整備事業の中で横瀬町産の木材の使用を検討しており、その木材に適したものを調達するための作業道の整備も兼ねた。

## □ 取組の効果

- ・写真通り、予算の過不足なく作業を終えることができ、令和7年度においても同様の作業を行い、令和8年度の木材調達に向け、遅滞なく事業を進められている。



(作業前)

(作業中)

(作業後)

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：1,925千円	②私有林人工林面積（※1）：3ha	
③林野率（※1）：3.7%	④人口（※2）：44,841人	⑤林業就業者数（※2）：287人

- 越谷市と小鹿野町は「森林の保全及び地球温暖化対策の推進を図るとともに、森林を活用した自然体験を伴う保健・教育・文化的・観光交流事業を実施し、相互の交流の促進を図ることを目的として、令和5年5月に協定を締結。
- 同協定により、小鹿野町の町有林の一部を連携・協力して森林整備を実施。

### □ 事業内容

同協定のに基づき、町有林の一部約0.5haを「こしがや・おがの交流の森」と名付け、小鹿野町と連携・協力して森林整備を実施した。

【事業費】3,332,400円（全額譲与税（越谷市））

【実績】刈払い、立木伐採工事等

### □ 取組の背景

・「埼玉県山とまちをつなぐサポートセンター」のマッチングにより、県内市町村初の協定を締結した。



森の様子



協定式の様子

### □ 工夫・留意した点

・森林の保全だけでなく、埼玉県森林CO<sub>2</sub>吸収量認証制度によるカーボンオフセットの実施や、植樹イベントを実施し越谷市民・小鹿野町民の交流促進にも取り組んだ。



こしがや・おがの交流の森で実施した植樹イベントの様子

### □ 取組の効果

・森林整備はもとより、カーボンオフセットを実施し、地球温暖化対策の推進を図ることができた。

・越谷市民・小鹿野町民を対象とした交流事業を実施し、地球温暖化や森林保全に対する意識の醸成を図ることができた。また、相互の交流の促進を図ることができた。

### ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：38,307千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：341,621人
	⑤林業就業者数（※2）：0人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 蕨市では、森林環境譲与税をカーボンオフセットなどに活用する方針。
- 令和6年度は、群馬県片品村と「森林整備の実施に関する協定」を締結し、森林環境譲与税を活用してカーボンオフセット事業を実施。

## □ 事業内容

### ○カーボンオフセット事業

- ・ 蕨市が森林整備費を負担。
- ・ 片品村において森林組合等による植樹、下草刈り、枝打ち、除間伐、萌芽更新などの森林整備活動などを実施。
- ・ 森林整備された土地については「わらびの森」として、両市村の交流の場として利用。

【事業費】420千円（うち譲与税420千円）  
（譲与税は、森林整備に係る部分に充当）

【実績】整備面積：0.5ヘクタール

## □ 取組の背景

- ・ 第3次蕨市環境基本計画に基づき進めている脱炭素社会の実現に向けた取り組みの一環として、カーボンオフセット事業の実施を検討。
- ・ 平成8年に、ふれあい交流協定・災害協定を締結し、以前から交流があった片品村と協定締結に至る。



（整備地）



（整備前）



（整備後）

## □ 工夫・留意した点

- ・ 事業実施前に、森林整備地を担当者により複数回視察することで、整備地の理解に努めた。
- ・ 両首長によるWEB会議を実施し、事業の必要性や方向性を共有。
- ・ 5年間の協定であるため、各年度当初に、当該年度における整備計画を立てることで、中長期的な視点を踏まえ、整備を進めている。
- ・ 教育委員会と連携し、自然体験ツアーを実施し、蕨市民の子どもたちが自然に触れる機会を創出するとともに、両市村の交流の場として利用。

## □ 取組の効果

- ・ 森林整備によりCO2吸収量の増加を図り、また、群馬県のCO2吸収量認証制度へ申請することで、CO2吸収量を把握し、本市のCO2排出量と相殺に繋げる。
- ・ 自然体験ツアーには、蕨市内の小中学生40名が参加し、子どもたちが自然を大切にする心を育み、集団生活による異年齢間交流により生活環境の違いや考え方など相互理解しながら自主性・協調性を育むことにも繋がった。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：8,328千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha	
③林野率（※1）：0%	④人口（※2）：74,326人	⑤林業就業者数（※2）：0人

- 富士見市とときがわ町との森林整備に関する協定を締結。
- このため、森林整備のための調査を実施。

## □ 事業内容

### 勝負平町有林状況調査業務委託

- ・ 富士見市とときがわ町との森林整備に関する協定により、森林整備を行うこととなったことから現況の調査を実施した。

#### 【事業費】

660千円（うち譲与税660千円）

#### 【実績】

現況測量及び立木の調査を実施

## □ 取組の背景

- ・ 富士見市にてカーボンオフセット事業の実施対象自治体を検討。
- ・ 富士見市とときがわ町が以前より交流があったことから連携することになった。

## □ 工夫・留意した点

- ・ ときがわ町が富士見市の「富士見ふるさと祭り」へ、富士見市がときがわ町の「木のくにときがわまつり」へ参加、将来の森林整備に向け交流を深めている。

## □ 取組の効果

- ・ 両市町が協力して森林整備を行うことで、森林の保全及び地球温暖化対策の推進と、森林を活用した交流事業等の実施を図ることを目的としています。



(担当者による現地視察)



(林内の状況)



(林内の状況)

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：12,869千円	②私有林人工林面積（※1）：3,498ha	
③林野率（※1）：69.5%	④人口（※2）：11,492人	⑤林業就業者数（※2）：7人

-63-※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

▶ 令和6年3月28日に川口市・立科町・佐久地域振興局と協定を締結

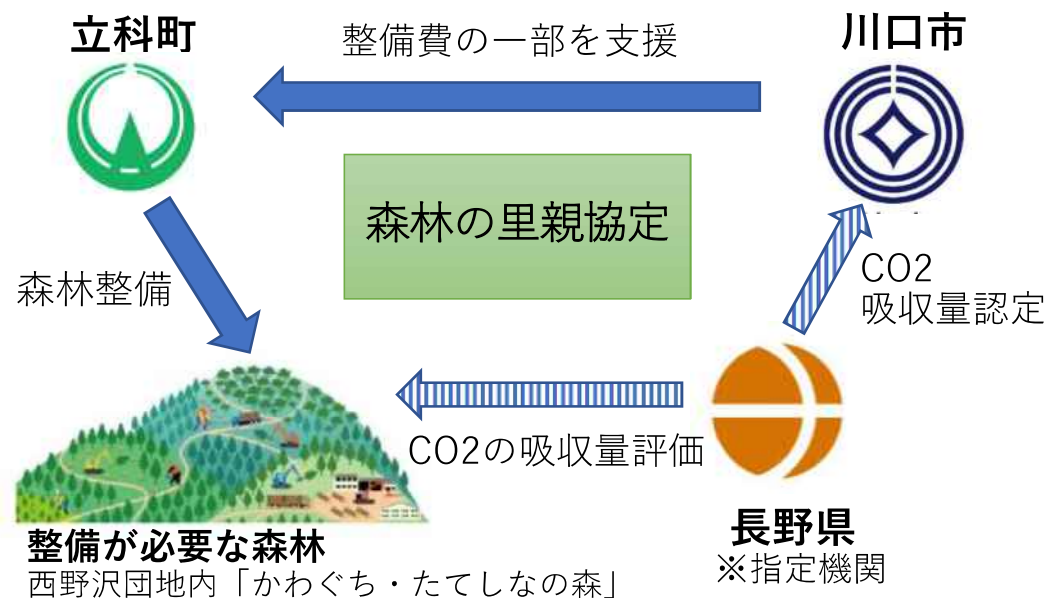
## 事業内容

- 【実施箇所】 長野県 立科町 町有林
- 立科町が町有林約22.84haを整備（※）し、川口市から整備費の一部として300万円を支援  
 ※対象：ヒノキ、アカマツ、カラマツ等の人工林  
 実績：下刈4.59ha、保育間伐9.26ha、除伐1.88ha、  
 地拵え・植栽・獣害防除7.11ha
  - 長野県に令和6年度整備内容の審査請求し、令和7年度にCO2吸収量認定予定
- 【事業費】 3,000千円（うち譲与税 3,000千円）

## 取組の背景及び効果

- 本市は2050年ゼロカーボンシティの表明を行っているが、都市部である本市のみでその実現は困難であり、CO2の吸収源である森林を多く有している山間部の町村との連携が求められていることから、長野県の森林（もり）の里親推進事業による立科町との自治体間連携の協定を令和6年度事業分から締結。
- 立科町有林「西ノ沢団地」内の森林651haを「かわぐち・たてしなの森」と名付け、複数年かけて整備する計画。
- 川口市が立科町の森林整備費の一部を支援し、その整備によって得られる二酸化炭素吸収量について川口市内の排出量から相殺が可能になる。

## 事業スキーム



## 基礎データ

①令和6年度譲与額：68,313千円	②私有林人工林面積（※1）：0ha
③林野率（※1）：0.9%	④人口（※2）：594,274人
	⑤林業就業者数（※2）：9人

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より